

## 1. はじめに

平成26年5月より平成30年3月まで、国土交通省よりカンボジア国公共運輸事業省(MPWT)に派遣され、運輸政策アドバイザー(JICA専門家)として活動を行った。そして、四年ぶりに日本で投函した今年の年賀状には、以下の拙詠を載せた。

四年間のカンボジアでのJICA専門家としての活動を振り返りて  
コンテナを積みしバースに乗りこみて大なるメコンを行き来せしかも  
港へと貨物を運ぶ鉄道の先頭車両にて一夜明かせり  
真夜中にコンテナ船に乗りこみて入出港の手続き調べき  
スタッフやカウンターパートと取り組みし活動の日々の今もうつつに  
縁得し友らゆ助けいただきて活動成し得しことぞうれしき

平成三十一年一月

本稿では、カンボジアの経済発展を支える物流改善に向けて取り組んだ活動を紹介させていただく。

## 2. カンボジアの物流課題

カンボジアは、1970年から20年以上にわたり、ベトナム戦争の戦場になったこと、クメール・ルージュによる内戦を経験したことなどから、多くの人々が命を落とし、道路、鉄道、港湾などの運輸インフラも破壊され、経済が疲弊した。タイ、ベトナムなどASEAN近隣諸外国が経済発展を遂げる中、カンボジアだけが取り残されてしまっていた。

1991年のカンボジア和平協定の締結後、国連カンボジア暫定統治機構(UNTAC)が1993年までの2か年にわたってカンボジアの復興を支援。それ以降、カンボジア政府は、日本を始め各国の協力を得つつ、国の復興・経済発展を図る取り組みを進め、年率7%の経済成長を遂げるまでに至っている。

私のJICA専門家としての活動期間は、カンボジア政府が産業政策(2015~2025)を策定し、国内外の投資家のカンボジアへの誘致、輸出産業振興を図るべく物流改善に取り組んできた時期にあたる。

原材料の輸入、製品の輸出のルートとしては、カンボジア唯一の外航コンテナ船が就航しているシアヌークビル港(SHV港)を経由するSHV港利用ルートがコンテナ貨物輸出入数量全体の約6割を、プノンペン港(PP港)、内陸水運を利用し、ベトナム港湾を経由するPP港内陸水運利用ルートが全体の約3割を占めている。

タイやベトナムに立地した場合と比較して、原材料輸入や製品輸出に要する時間、コストが高いなど課題を抱えているカンボジアの物流の改善に向けては、SHV港利用ルート、PP港・内陸水運利用ルートの輸送コスト・時間の低減が最重要課題だった。

## 3. JICA専門家としての取り組み

冒頭の拙詠の一首目は、メコン河の内陸水運の改善に向けて、コンテナ輸送バース船に乗船し、航行状況やカンボジア・ベトナム間の国境越境手続きの現状を調査した際の短歌である。

内陸水運は、輸出米など重量物を大量に輸送するのに適していて、陸上輸送に比べると、輸送コストも安く、環境にやさしい輸送手段である。しかし、PP港から、外資コンテナ船に積み替えるベトナム南部の港湾まで、陸路では平均約5時間かかるのに対し、水路では平均約40時間もかかる。国境の越境手続きにカンボジア側、ベトナム側合わせて2時間を要すること、国境の国の機関が夜間事務所を閉鎖するために、夜間に国境に到着した船舶は翌朝まで国境水域で待機を要することなどがその要因だ。

MPWTは、国交省港湾局、JICAの支援のもと、船社、カンボジア・ベトナム両国の国境越境手続き機関の協力を得て、試験的に

夜間に船舶の国境通航の越境手続きを行ってもらい、そのメリット、デメリットを検討した。越境手続きの24時間対応化は、



メコン河内陸水運の追跡調査

内陸水運の輸送時間を低減させ、輸送能力を増加させる。現在、船舶の国境通航24時間化の実現に向けて、両国間で協議が開始されたところだ。

二首目、三首目は、SHV港利用ルートの改善に向けて、カウンターパートと共に鉄道アクセスや船舶の港湾入出港手続の現状を把握するための調査をした際の短歌である。SHV港は、カンボジアの輸出入のゲートウェイとして経済を支え、人々の生活を支える役割を担う。現在、SHV港では、円借款事業による水深14.5mの新コンテ



シアヌークビル港での船舶入出港手続の追跡調査

ナーミナル整備プロジェクトや、コンテナターミナルの運営能力向上のための技術協力プロジェクトなどがJICAの支援の下で進められている。また、SHV港、PP港の運営改善に向け、

船舶の港湾入出港手続の電子化、国際標準化を行う港湾EDI(Electronic Data Interchange)導入を行う無償資金協力事業(日本ODA事業)が進められている。

## 4. おわりに

四首目、五首目は、カウンターパートや仲間とともにカンボジアで活動した喜びを詠んだ短歌である。

カンボジアは、紀元9世紀から15世紀まで栄えたクメール王国の伝統を正統に継ぐ唯一の王国であり、クメール語を国語とするクメール民族が大半を占める。そのカンボジアで活動を行なえたことは、クメという同じ名前を持つ私にとって大変ありがたい稀有な縁だった。JICA専門家として運輸インフラ整備、物流改善の分野で一端を担えたことを誇りに思っている。



公共事業運輸省スン・チャントール大臣へのご説明

\*くめ・ひでとし JECC会員(横浜市磯子区在住) 現職:一般社団法人日本港運協会理事兼港湾物流戦略室長 JICA専門家としての経歴:国土交通省よりカンボジア王国公共事業運輸省に、2014年5月より2018年3月まで派遣。専門分野は、運輸政策、運輸インフラ整備、港湾運営、物流改善。